奥能登国際芸術祭ボランティア

代表者名●柏谷水月（経済学部経営学科・３年）

はじめに（背景・目的・目標）

奥能登国祭芸術祭とは、石川県のさいはての地である珠洲とそこに住む地域の方々が、世界的に有名なアーティストと交流し、共に作り上げる芸術祭である。参加したきっかけは、石川県に住んでいるものの、一度も奥能登国際芸術祭に参加したことがなかったため、参加しようと思ったという声や、観客として参加したことはあるが、今回は運営として参加してみたかったという声などが挙げられる。

今回のボランティアの目的は、地域密着型の芸術祭の運営に携わることで、奥能登国際芸術祭が珠洲にとって、どのような役割を果たしているのかを探るためである。

活動内容

ボランティア会場の受付、清掃、設営など。

成果、結果の考察

今回のボランティアを通して改めて感じたことは、多くの人たちの支えがあり、芸術祭が成功しているということである。地元の人の協力だけではなく、県外から芸術祭の運営のために奥能登にきたという人も少なくなかったことに驚いた。

また、地元の人たちが遠方から来られる人たちによって元気付けられているとも感じた。

この芸術祭では、地元を思い出し、珠洲に帰ってくる方もいらっしゃった。このイベントが珠洲に生まれ育った方たちをつなぐ役割も果たしていると思った。

私は実際に鉢ケ崎海岸で開催された演劇のイベント設営スタッフのボランティアを行った。最初は松の木や砂で汚れていた客席が、ボランティアメンバーの協力のおかげで非常に綺麗になった。綺麗になった客席を見て達成感を感じ、演劇の開演が待ち遠しくなった。演劇は大盛況で100名ほどの観客が訪れた。このボランティアでは珠洲出身の方だけではなく全国から集まった方達で構成されていて、この芸術祭が珠洲と日本全国を結ぶ架け橋となっていることに感動した。

今後の課題、展望

今回のボランティアでは、珠洲の方と日本全国を結ぶ架け橋の役割を担っていることがわかったが、能登半島地震を経験して、今後この芸術祭は被災地復興という意味でも大きな役割を果たすと思う。今後も継続して芸術祭を開催するには、全国からの支援が必要であるため、支援の呼びかけにも力を入れていきたい。